

第9回ちゅら眼科懇話会

謹啓

時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品に関しましては格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、下記のテーマにて、学術講演会を開催させて頂く運びとなりました。

つきましては、万障のお繰り合わせの上、何卒、ご参加賜りますようご案内申し上げます。

謹白

日時

2018年1月6日(土)
19:10~20:00

会場

ロワジールホテル那覇
沖縄県那覇市西3-2-1
TEL:098-868-2222

製品紹介 19:10-19:20

HOYA株式会社 メディカル事業部
『HOYA Vivinex iSert について』

特別講演 19:20-20:00

座長 古泉 英貴 先生 (琉球大学大学院医学研究科 眼科学講座 教授)

演者 三木 篤也 先生 (大阪大学 脳神経感覚器外科学〔眼科学〕 講師)

演題 『緑内障OCTの最前線』

従来、標準的な緑内障診断法は、眼底検査により緑内障性視神経症に特徴的な所見を見出し、静的視野検査もしくは動的視野検査によりそれに一致する視野障害を確認することでした。しかし、緑内障が本邦の中途失明原因の首位を占め、しかも緑内障の未受診率が90%近くに及んでいるという現状は、従来の診断法では緑内障による視覚障害を阻止するには不十分であることを物語っています。

光干渉断層計(OCT)による網膜神経線維層(RNFL)厚および黄斑部網膜神経節細胞複合体(GCC)厚の測定は、定量的に視神経症を診断できるため、有効な初期診断法として地位を確立してきました。一方で、過剰診断や、近視など特殊な症例に対する診断力が低いなどの短所が多く指摘されています。しかし、それらの多くは適切にOCT検査、解析を行うことで対応可能です。本講演では、まずOCT画像の基本的な読み方について改めておさらいをし、OCTと従来の視野検査、眼底検査の検査としての特徴と、有効な使い分け方について解説します。更に、OCTを元にした緑内障の進行解析についてご紹介したいと思います。

略歴

平成9年	1997年	大阪大学医学部医学科	卒業
平成11年	1999年	社会保険紀南総合病院	医員
平成18年	2006年	大阪大学大学院	卒業
同上		大阪大学付属病院	医員
平成21年	2009年	大阪大学医学部	助教
平成24年	2012年	カリフォルニア大学サンディエゴ校	客員研究員
平成25年	2013年	大阪大学医学部	復職 (学部内講師)
平成28年	2016年	大阪大学医学部	講師

*講演会終了後に懇親会を予定しております。

*誠に申し訳ございませんが、本会におきましては旅費の負担が出来ません事をご了承下さい。

主催 HOYA株式会社 メディカル事業部